組織文化（症状）	キーワード	作業カルチャー	作業カルチャー	作業カルチャー	作業カルチャー	作業カルチャー	作業カルチャー	作業カルチャー	作業カルチャー	作業カルチャー	人材	人材	人材	人材（継続・持続）	人材（継続・持続）	人材（継続・持続）	人材・技術	成果物	成果物	成果物	成果物	成果物	プロセス	プロセス	プロセス	プロセス	プロセス	プロセス	プロセス	プロセス
	概症状	実装期間に、設計書への穴埋め作業が習慣化している。	要求の仕様化の穴埋め作業はコードを実装しながら実施することが、納期を守ることや、より良い方法であると信じている。	従来の成果物はレビューするが、XDDPの成果物はレビュー対象としていない。	XDDPの成果物はレビュー対象でないため作成することが形骸化している。	開発技術・設計技術における現状の寄り方に問題があると認識しているが「身近な成功事例がない」という理由だけで新たな技術の取り組みを行わない／行おうとしない／評価しない。	新しいことに取り組まないため、開発者の技術力が上がらずモチベーションが低下してしまい、次第に疲弊していく。	新たな手法への取り組みを行わない。また、行おうとしないその結果、開発者の技術が上がらない。	人管理者Vと業務をルーチンワーク化することで難易度を下げ、誰でもできることを求める。	人開発者Vに与えられた仕事をこなすことはできるが、状況に応じて自ら判断して仕事を進めることができない。	物事の捉え方がいつも否定的であり、他者の成功事例や新たな設計手法などから優れた点を見出し、改善につなげる活動が行われない。	レビューの問題を有識者不在としていない。それ以上の深堀ができない。	人が育たない。（自分の範囲しかみない）	レビューで有効な指摘ができない理由を有識者不在としている。	成果をあげた人を不当応援させるため、後続プロジェクトでXDDPに取り組んでも、相談相手がいない。	社外コンサルタントのサポートがあるときはXDDPの導入に成功したが、その後サポートが終了すると従来ののやり方に戻ってしまった。	社外コンサルタントに代わる社内アドバイザーがおらずXDDPが組織に定着しない。	技術解を提供できる人／組織がない。	既存のプロセスにXDDPの成果物を追加した。	成果物を作業完了後に作成している。（成果物作成が形骸化している）	成果物の記述内容に統一感がない（レビューができていない）	自分たちの旧来のやり方（都合）に合わせて変更要求仕様書と変更設計書を作成してしまい効果が出ていない。	変更要求仕様書と変更設計書が我流の書き方になってしまっている。	制定された開発プロセスがある。	公的組織によって認定／確認された開発プロセスがある。	制定された開発プロセスは、規格により「標準プロセス」として組織の開発規定に記載されている。	開発規定に開発プロセス（標準プロセス）遵守の記載がある。	「組織の標準プロセス」の名の下に異なるプロセスが許容されない。	開発規定に記載されているため（標準）プロセスを変更・更新出来ない。	プロセスを本質から歪めたかたちで導入してしまった。	プロセス通りに進めているが作業遅延等の問題が発生する。
【自組織のXDDP導入状況】（病名） ========== **1. これから導入を計画している（企画段階）** ==========																														
【開発者が注意すべき病気】																														
■#13本質理解欠乏症候群：慢性ダイジェスト症																		○	○	○										
【管理者が注意すべき病気】																														
■#5トレーニング省略症																														
■#7標準プロセス呪縛症																							○	○	○	○	○	○		
【開発者と管理者共通で注意すべき病気】																														
■#8課題形成能力欠乏症																														
■#15せっかち病 習得順序間違え																														
■#16対策重ね着症																														
========== **2. 現在導入活動中である** ==========																														
【開発者が注意すべき病気】																														
■#3本質理解欠乏症候群：形式依存症																														
■#12本質理解欠乏症候群：偽装工夫無自覚症																														
■#13本質理解欠乏症候群：慢性ダイジェスト症																		○	○	○										
【管理者が注意すべき病気】																														
■#5トレーニング省略症																														
■#7標準プロセス呪縛症																							○	○	○	○	○	○		
【開発者と管理者共通で注意すべき病気】																														
■#1レビュー不全症候群：レビュー軽視																														
■#2レビュー不全症候群：有識者依存症											○	○																		
■#4ながら作業無自覚症		○	○																											
■#8課題形成能力欠乏症																														
■#11プロセス化石化症																												○		
■#14本質理解欠乏症候群：我流症																					○	○								
■#15せっかち病 習得順序間違え																														
■#16対策重ね着症																														
■#20プロセス設計意識欠乏症（導入失敗型）																														
========== **3. 現在定着活動中である** ==========																														
【開発者が注意すべき病気】																														
【管理者が注意すべき病気】																														
■#21最前線至上症												○	○				○													
■#22社内アドバイザー育成軽視症														○	○															
【開発者と管理者共通で注意すべき病気】																														
■#19肯定眼欠如症										○																				
■#23プロセス設計意識欠乏症（定着失敗型）																													○	
■#24ブルーカラー症								○	○	○																				
■#25先陣恐怖症						○	○																							
========== **4. 過去に導入・定着で失敗した経験がある** ==========																														
【導入の失敗の原因】																														
2.「現在導入活動中である」を参照して頂きたい。																														
【定着の失敗の原因】																														
3.「現在定着活動中である」を参照して頂きたい。																														

プロセス	プロセスカルチャー	プロセスカルチャー	プロセスカルチャー	プロセスカルチャー	プロセスカルチャー	技術（レビュー）	トレーニング	トレーニング	トレーニング	トレーニング	トレーニング	トレーニング	導入事前検討
既存プロセスで想定していない作業が必要なときがある。	従来から慣例的に実施してきている慣れ親しんだプロセスを、変えようとしない。	遵守の意味を成さないプロセスなのに、慣例的に継続されているので簡単に外せない。	慣れ親しんだプロセスをいつも使っている。	XDPの成果物を既存のプロセスに当てはめた。	以前作成したプロセスを変更していない。	レビューで問題の指摘漏れが繰り返し発生する。	トレーニングを行わないでXDPを導入した（現場は混乱）	XDPを導入しても期待した効果が得られない	管理者は手法を紹介するだけで推進しない	適切な修正箇所を抜き出すためのソースコード解析ができていない	「変更3点セット」による変更箇所や変更内容、変更方法の特定がずれている	XDPの成果物をレビューしても有効な指摘が得られない。	変更量の割にバグが多発する派生開発にXDPが有効との情報を得て導入したが想定したほどの効果が出ていない
							○	○	○				
										○	○	○	○
						○							
	○	○											○
			○	○						○	○	○	
○					○								